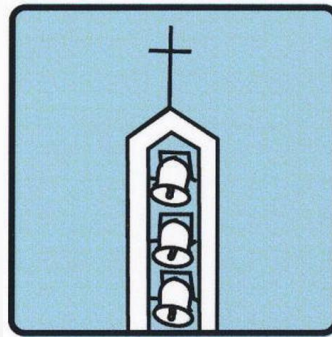


大宮教会「小グループから成る教会」の 基本的考え方



日本基督教団大宮教会 長老会

1-1 小グループの定義は

「小グループとは、主の御言葉を中心に集う少人数の交わりである。主が共にいてくださる交わりを通して、神を知る喜び、真の交わりを保つ喜びが与えられる。お互いの状況や問題に対し、互いに養われるキリストの愛に生きる交わりである。各自の賜物を用いて互いに仕え合い、“誰も一人ぼっちにならない教会”になるように、小グループによる伝道を行う。」

1-2 小グループの5原則

1. 目的志向：大宮教会のビジョン・理念と方針の実現を目指す、目的志向の組織です。
2. 万人祭司：万人祭司の考え方を持って御言葉に聴き、互いに仕え合う組織です。
3. 最適人数：常に最適人数の枠組みの下に共通の行動原則を持って運営される組織です。
4. 開かれた組織：すべての小グループは、教会員であるか否かにかかわらず、基本的に受け入れるオープンな組織です。
5. 共通の組織運営の仕組み：大宮教会の運営組織の中に位置づけられ、相互意思疎通の仕組みの下に運営される組織です。

1-3 大宮教会ビジョンと小グループ

小グループは、大宮教会ビジョンである「すべての人を喜びあふれる神の家族へ～聖書の御言葉に生きる共同体～」として成長して行く、日々の生活の中に築かれる小さな教会です。

小グループはキリストの体の一部であり、大宮教会というキリストを頭(かしら)とする体を造り上げて行く目的の中にあります。伝道基本方針(たて糸)と小グループ活動(よこ糸)とが、両方あいまって織り上げるところに、大宮教会のビジョンが見えてきます。

2. 小グループの編成

2-1 小グループの交わりのための5つの要件

1. ふさわしいリーダーがいる。
2. メンバーとリーダーがつながっている。
3. メンバー同士が相互につながっている。
4. 交わりの中で相互にケアされている。
5. 個々の成長が確認できる。

2. 小グループの編成

2-2 小グループの最適人数を考えます。

原則として、一つのグループでは5~8人として、10名を超える場合には再編成する準備をします。

2-3 自主編成を原則とします。

ただし、新しい小グループの立ち上がり段階では、ほかの小グループの経験者から側面的な助言や支援も大いに可能です。

2. 小グループの編成

2-4 どの小グループでも、常に教会に初めて来られた「新しい人を歓迎」する姿勢を大切にします。

2-5 小グループは編成したら、所定の様式にて事務主事を経て長老会へ届け出ることになります。届け出の用紙には、会の名称、メンバー、集会の日程、会の目的を記す欄があります。

届け出の趣旨は、集会場所の重合の調整、グループ編成状況の把握などが中心であり、活動の細部に関与するものではありません。

2-6 「誰も一人ぼっちにならない教会」となるための配慮

私たちは隣人の、悲しみ、悩み、心の重荷こそ、信仰を共にする人が支え、分かち合うことを目指します。例えば、

1. 心を分かち合える人がいないために主日礼拝に出席しているが、次第に教会から足が遠のいてしまう兄弟姉妹(受洗後間もない人、求道中の人に多い)には、適切な小グループに迎え入れ、心の拠りどころと交わりの喜びが得られるように教会として配慮したいものです。
2. 主日礼拝に出席していない教会員のいろいろな事情については、個々に配慮して、状況にかなった手を差し伸べる必要があります。いずれかの小グループに出席したり、あるいは同じような事情にある人の集まりを持つことができたなら、真に神の家族に復帰できるのではないのでしょうか。教会でよい働きをしていた人が、人間関係のもつれから、礼拝を休むようになったり、教会を離れることにならないような小グループにできる配慮は大切です。
3. 病気や高齢で長期に礼拝を休んでおられる方には、地域会や各小グループが定期的な訪問や病床聖餐などの手立てを工夫することにより、「一人ではない」神の家族の一員であることを実感していただけるように配慮できます。

2-7 リーダーは原則として互選とする

1. リーダーの働き:

健全な教会は、信仰の小さな共同体すなわち小グループから成っています。小グループから成る教会のグループ・リーダーの働きは大切な牧会となります。

2. リーダーの適性:

リーダーにふさわしい人とは、お互いに弱さや欠点がありながらも神を愛し、人々を愛し、真理を愛し、教会を愛する人に変えられることを目指し、キリストの花嫁である教会を最優先事項とみなし、その牧会と奉仕に献身的に奉仕するひとです。

3. 私たち一人ひとりの目標として:

このようなリーダーを念頭に、「小グループから成る教会」形成の導入期、推進期の活動を通して、互いに支え合って、そして、キリストに導かれて私たち一人ひとりにはリーダーにふさわしい人へと成長して行きたいと願っています。

2-8 何をきっかけとして小グループを編成ができるでしょうか。例えば、次のような機会を用いて、

- スタッフ・グループ: 礼拝・伝道・教育の各委員会やCSのスタッフから発展して。
- 家庭集会グループ: 未信者に開かれた各地域における家庭集会。
- 養育グループ: 入信者の受洗準備、受洗後の養育の機会。
- 課題別訓練グループ: ディボーション・トレーナー、奉仕者(リーダー)など。夫婦、独身、壮年、婦人、青年、学生、子育て中の親御さん、主婦。
- 関心事グループ: 共通の関心事(聖書の学び、祈り、仕事、技術、趣味、知識など)により共通テーマを抱える人々。
- 奉仕・賜物グループ: 他の人に仕えたいという共通の願いを基調に編成します。身近なものとしては、教会内奉仕(新来者受付、礼拝奉仕、奏楽、ワーシップ、生け花、食堂、会堂清掃、送迎など)が中心ですが、いずれ地域の外部奉仕も考えられます。
- ケアグループ: 子育て、危難、療養そのほかで困っている人のために、支え、祈り、配慮などの交わりと居場所を提供する奉仕活動。

3. 小グループ活動の進め方

3-1 基本的な心構え

A メンバーの交わりに織り込む5つの実践

1. お互いに心を開いて交わること
2. 相互に気遣い配慮しあうこと
3. 常に謙虚に傾聴に努めること
4. 真実を伝えあい秘密を守ること
5. 個性を尊重し認め合うこと

3. 小グループ活動の進め方

B 真実な人間関係

交わりを築く原点は、相手の人に対する思いやりです。以下は私たちの小グループの交わりのルールとして守りたいと願っていることです。

1. まず相手の語ることをそのままに受け入れるように努めます。
2. 人前で相手の間違いは指摘しません(個人的に、あまり時をおかずにその間違いについてお話するようにします)。
3. しかし、その指摘はいつも建設的に、肯定的に、前向きにします。
4. 決して、私たちは命令口調では話しません(人にものをいうとき、頼むとき)。
5. 相手の能力や、おかれている状況に合わせて伝えます(自分でできることとは、相手ができることではありません)。
6. 相手と共に働きます。相手の悲しみを悲しみとし、喜びを喜びとし、共に生きること、そこにキリストと共に生きる人間関係の奥義があります。

3. 小グループ活動の進め方

C 一人ひとりが主体的に、前向きに、積極的に取り組みます。

1. 一人ひとりが「万人祭司、万人リーダー」の自覚を持って：

小グループを構成するメンバーは、お互いが神の御前に礼拝し、奉仕する祭司として、大祭司キリスト・イエスに仕えるものであるとの自覚を持って、小グループ活動の運営に参画します。

メンバーは、小グループの中心に神の栄光を現す礼拝を持ち、神の家族としての交わりを行い、御言葉に聴く生活のために励まし合う関係と変えられます。また、小グループは、お互いが万人祭司の原則の下で仕え、この交わりは多様なリーダーを養成する場ともなります。

2. グループ・メンバーにはOne for all. All for one. (一人は全員のため、全員は一人のため)の精神で

小グループ活動を円滑に運営するためには、メンバー相互の人間関係(チームワーク)は非常に重要であり、One for all. All for one.は、チームの本質を示す言葉として有名ですが、これはそのまま小グループ活動にも当てはまる言葉です。

個々のメンバーは常にグループ全体のことを配慮し(目的志向)、グループ全体はチームメンバーの個々を気遣う(個の尊重)、この自覚を常時持って活動したいものです。

4. 小グループの集会のあり方

4-1. 集会のプログラム(参考例:1~4は必須、その他の内容・時間はそれぞれのグループごとに決まります)。

1. 賛美(約10分 賛美またはワーシップソング)
2. 開会の祈り(約5分 祈る人はあらかじめ決めておく)
3. 御言葉の学び(約30分 聖書日課より)
4. 証し、喜びの分かち合い(約15分)
5. 休憩(10分)
6. 今日の課題(約50分 出席者確認、前回の確認、本題、本日の確認、次回の確認、集会記録の作成をして、欠席者への情報提供として配る)
7. 祈禱(10分、一人、または何組かに分かれて。主の祈り)

4. 小グループの集会のあり方

4-2 集会の関連事項

1. 集会のつど、所定様式の簡略な記録票を提出します。記録票は小グループ活動状況を把握して、今後の活動推進に役立てます。
2. 牧師に出席をお願いする場合は、前もって予定をお知らせください。
3. 開催日時場所を事前に決めて周知します。場所は教会に限らずグループで相談して決めます。教会で行う場合は事務主事に届けて部屋・使用時間を確認しましょう。なお場所については、家庭での集会が多くなることが期待されます。
4. 集会開催頻度はグループで決めましょう。グループの取り組む課題にもよりますが、交わりを深めることから、毎週、または月に2～3回は集まるようにできれば良いです。
5. 小グループメンバー間の連絡や交わりの手段。電話やファックスの活用以外に携帯電話やEメールの利用も心がけたいものです。
6. 集会を進める上で困ったことやわからないことがある場合。小グループ担当長老または事務主事に連絡して、協力を要請しましょう。
7. リーダー連絡会の定期的開催。相互の成功例・失敗例などをして、お互いのスキルアップを図り合いましょう。
8. 新規に小グループに参加する人への配慮。グループの交わりに早くなじめるようにオリエンテーションそのほかに万全の配慮を尽くします。
9. 欠席しがちなメンバーについて 事情を早めに察して、復帰に努めましょう。
10. 求道者、関心ある新来者について 早期に教会員がマンツーマンで対応することが大切です。新来会者を心から歓迎できる小グループを目指しましょう。